

景況調査

報告書 NO. 83

平成31年4月～令和元年6月 実績
令和元年 7月～令和元年9月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

令和元年度第1四半期(H31.4~R1.6月)景況調査

1. 調査時点 令和元年6月13日～28日

2. 調査対象

- (1)対象地区 蒲郡市内
 (2)対象(回答)企業 107[100企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	51 (3)	7 (2)	15 (1)	16	10 (1)	8	107 (7)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比で△7.5、前期実績(1～3月△20.4)に比較すると12.9ポイントの上昇・悪化の傾向が見られ、前年同期比では△10.3、前期実績(1～3月△14.3)と比較すると4.0ポイントの上昇・悪化の傾向が見られた。**売上DI値**は、前期比で△10.3ポイント、前期実績(1～3月△18.4)と比較すると8.1ポイントの上昇・悪化の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△10.3、前期実績(1～3月△17.3)と比較すると7.0ポイントの上昇・悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(R01.7～9月)見通し**については△13.1、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △7.5)と比較すると5.6ポイントの下降・悪化の見込みとなった。

「**製造業**」のうち食料品は前年同期比で売上は上昇するも多くの数値が下降した。織物は、寝装関係は前年同期比で厳しい状況も、夏物需要もあり前期比では生産・売上・採算等が上昇。多重織りガーゼの受注にやや落ち着きが出てきている。漁網・ロープは月による変動はあるが、生産量では平均で前年並み。但し販売数量・金額は前年より5%前後の減少となっている。鉄工のうち工作機械関係は全国統計で内需・外需とも前年同月比で3～4割の減少。当地区でも前年同期・前期比で売上の減少等が見られ好調を維持してきた業界が減速。自動車関係はトヨタの国内日当たり生産は1万4千台と堅調で推移。新型SUVやミニバン等が牽引。化学工業は国内・輸出とも堅調であった。プラスチックは売上は前年並みも原材料・燃料高により採算が悪化傾向。販管費の圧縮等で利益を維持。

「**建設業**」は、年度末の需要期を過ぎて、売上収益・総合とも下降となった。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は<インテリア>4月は商品の動きもよく順調。5月連休は例年並み。6月は閑散期のため売上は落ち着く。祝祭日に雨がも多く売上への影響を懸念。<アパレル>素材では、リネン関係は供給不足傾向で先々まで受注あり。一部プリントものに動きがあった。製品では、夏物は母の日セール等の仮需で例年並み。以降は低調で問屋筋の動きが悪い。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

<全業種 各項目別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年4月～6月 に比べて	前期比 平成31年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月～9月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-12.1	-10.3	-12.1	H30. 4～6月実績	-2.7	-5.5	-11.2	-17.4	-7.4	-7.4	-7.3
②製品・商品在庫	-12.1	-11.3	-9.4	H30. 7～9月実績	-1.9	-10.5	-16.2	-12.4	-12.4	-11.5	0.9
③資金繰り	-1.0	-1.9	-10.3	H30. 10～12月実績	6.8	17.7	-11.7	-8.7	-6.8	0.9	-10.7
④採算(収益)	-14.0	-10.3	-11.2	H31. 1～3月実績	-8.1	-18.4	-15.3	-17.3	-14.3	-20.4	-11.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	6.5	-7.5	H31. 4～R1. 6月実績	-12.1	-10.3	-14.0	-10.3	-10.3	-7.5	-13.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-10.3	-7.5	-13.1								

「**小売業**」は、数値の上昇はあるも消費に力強さが戻らず、売上・収益・総合ともに水面下。飲食は特徴的な変化はないが、今期はGW10連休の効果もあり祝祭日の利用が通常より目立った。石油等その他小売はWTI 期近物はOPEC協調減産の継続やリビア情勢の緊迫化等で一時上昇も、米国・ロシア増産傾向、米中貿易摩擦等による需要減退懸念もあり50ドル台後半で推移。

「**サービス業**」のうち旅館関係GW10連休に旅行が集中。前後は出控えて不安定。宿泊者数では前年比並も底上げ要因はインバウンド。GW期間以外の国内旅行は逆に減少。この傾向は続く見込みでインバウンド受入態勢強化と、国内旅行獲得を進めたい。

「**運輸通信業**」 貨物輸送では完成車輸出は、主に北米向けの減少で月1万台を割り込んだまま。海上コンテナ貨物輸出は中国向け中心に好調を維持。鋼材移入は月間1万t以上の好調を維持。旅客関係ではGW長期化もあつてか4～6月期は対前年比も上回り順調に推移した。

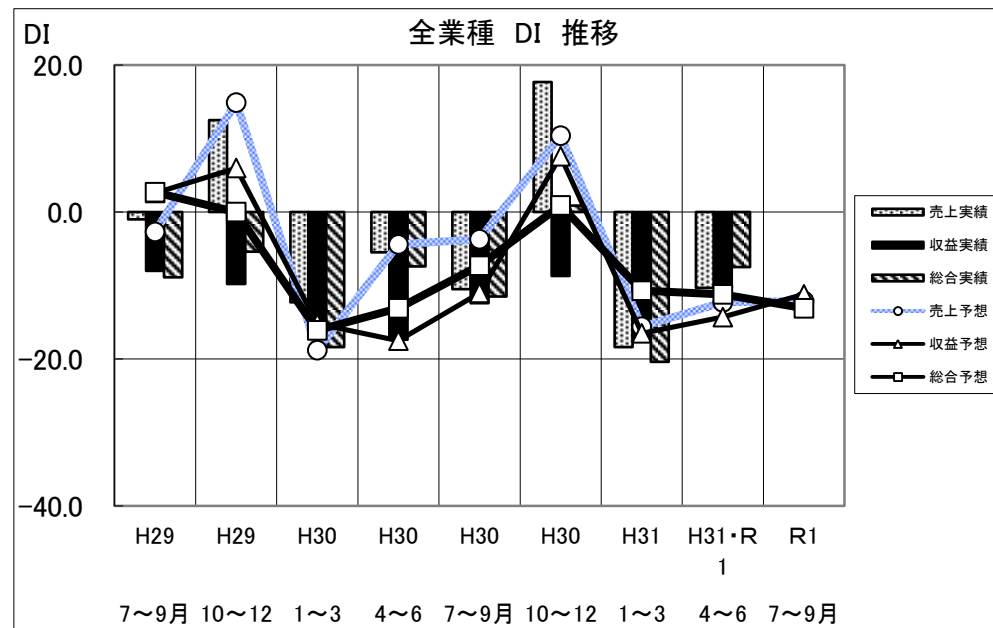
設備投資状況は、38事業所(53件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は42事業所(65件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では売上の停滞・減少、利幅の縮小、人手不足、原材料(燃料)高、人件費の増加が項目別で上位を占めていた。

当地区において 第1四半期は前年同期、前期比でほぼ全ての数値が水面下。業種別では化学・プラスチック、飲食、旅館、運輸通信業、旅客・貨物輸送・水運が堅調な半面、他業種では悪化の状況。好調を維持してきた工作機械関係が中国景気停滞の影響もあり減速。経営上の問題点でも売上の減少が一位で、地方における個人消費の停滞感が続き、景気全体に減速感があり。本所アクションプランを総括する年度に入り、地域経済の持続的発展を図る所存である。

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-1.0	12.5	-12.3	-5.5	-10.5	17.7	-18.4	-10.3	-12.1
収益	-8.0	-9.8	-15.0	-17.4	-12.4	-8.7	-17.3	-10.3	-11.2
総合	-8.9	-5.4	-18.4	-7.4	-11.5	0.9	-20.4	-7.5	-13.1

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)

製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)

資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)

従業員数 :DI=(増加)-(減少)

業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き

DIが0 ⇒ 景気横ばい

DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

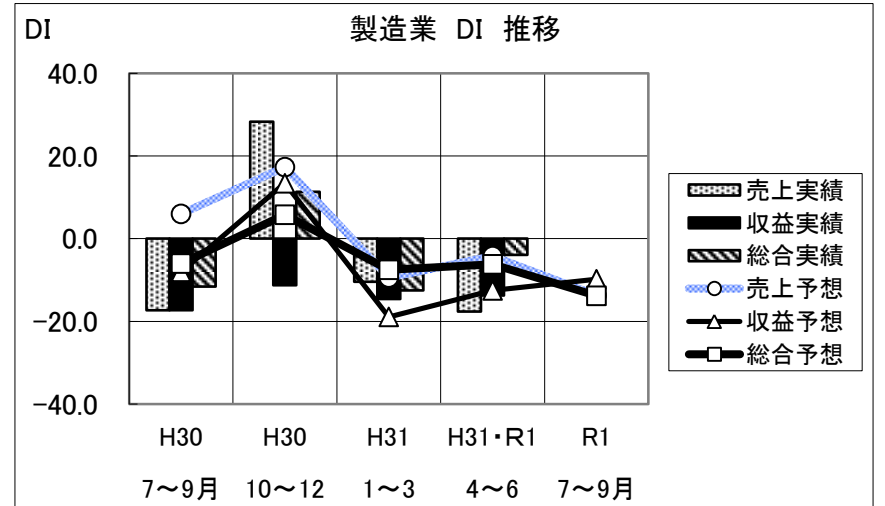
売上DI値は△17.6、前期実績(1~3月期 △10.4)に比して7.2ポイントの下降、収益DI値は△13.7前期実績(1~3月期(△14.6)に比して0.9ポイントの上昇、総合判断DI値は△3.9、前期実績(1~3月期(△12.5)に比して8.6ポイントの上昇と、売上は下降。収益・総合はDI値は上昇するもいずれも水面下となった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合いずれも水面下の傾向となっている。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年4月~6月 に比べて	前期比 平成31年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-19.6	-17.6	-13.7
②製品・商品在庫	-5.9	-5.9	-5.9
③資金繰り	-13.7	-7.9	-13.7
④採算(収益)	-19.7	-13.7	-9.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	13.8	7.8	-7.9
⑥貴社の業況(総合判断)	-17.6	-3.9	-13.8



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-17.3	28.3	-10.4	-17.6	-13.7
収益	-17.3	-11.3	-14.6	-13.7	-9.8
総合	-11.6	11.3	-12.5	-3.9	-13.8

[食料品]

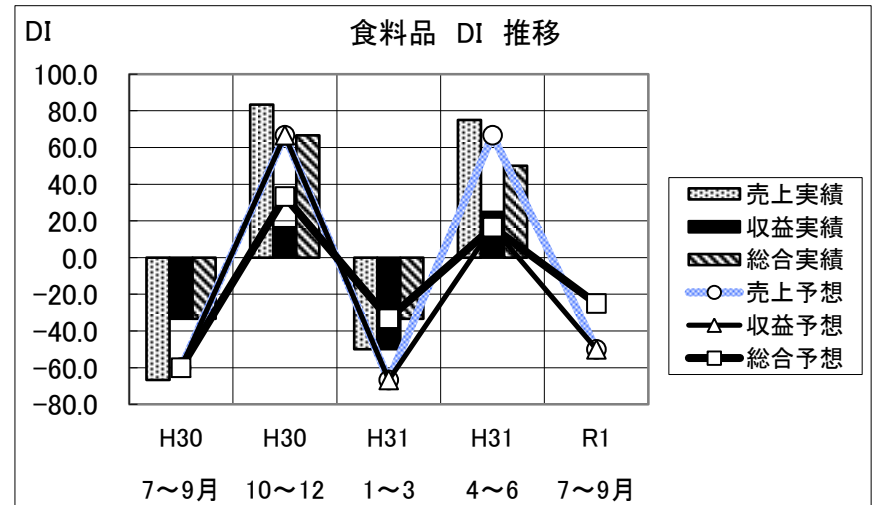
売上は前期比DI値は75.0と上昇、前年同期比ではDI値25.0と上昇。収益では、前期比DI値で25.0と上昇、前年同期比では△25.0と下降。総合判断では前期比DI値は50.0と上昇、前年同期比はDI値△25.0と下降。前期比では季節要因もあり在庫を除く全ての数値が上昇。前年同期比で売上は上昇するも多くの数値が下降した。

向こう3ヶ月の見通し 売上DI値△50.0、収益DI値△50.0、総合判断DI値△50.0と業況は下降する見通しである。いかに消費者ニーズを掘り起こす商品を提供できるかが課題であり、愛知県産小麦やアサリ・深海魚等の特徴的な水産物、東三河の農産物など地産食材を活用した商品展開に力を入れている企業が見られ、今後も地域性を売りにした商品開発の動きが期待される。

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年4月~6月 に比べて	前期比 平成31年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	25.0	75.0	-50.0
②製品・商品在庫	-25.0	-25.0	0.0
③資金繰り	-25.0	50.0	0.0
④採算(収益)	-25.0	25.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	25.0	-25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	50.0	-25.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-66.7	83.3	-50.0	75.0	-50.0
収益	-33.3	16.6	-50.0	25.0	-50.0
総合	-33.3	66.7	-33.3	50.0	-25.0

【織物】

寝装関係は前年同期比で厳しい状況も、夏物需要もあり前期比では生産・売上・採算等が上昇。多重織りガーゼの受注にやや落ち着きが出てきている。インテリア向けジャカードカーテンは深刻な状況が続き、産業資材も苦戦している状況。

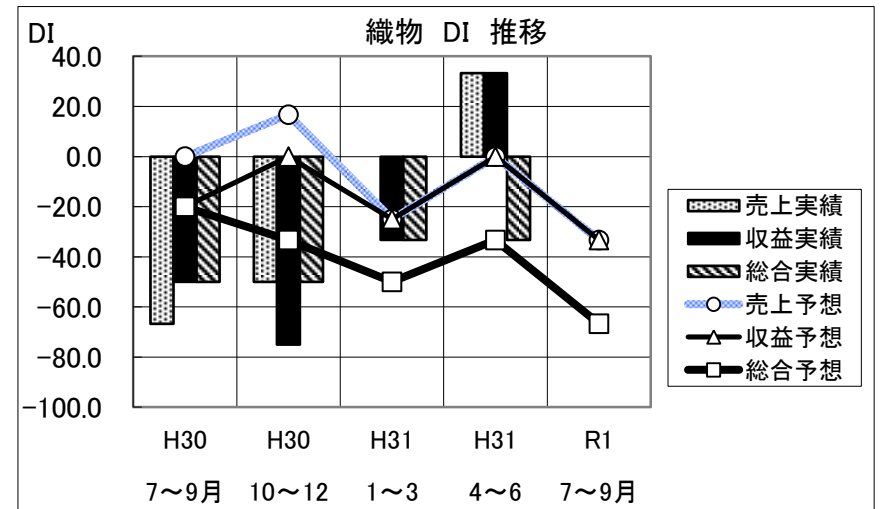
向こう3カ月の見通し

多重織りガーゼについては一定量の受注が見込まれるも、海外も含めて競合が増えつつあり総合的には厳しい状況。

(織物)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成30年4月～6月 に比べて	前期比 平成31年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	33.3	-33.3
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-33.3
③資金繰り	-33.3	-33.3	-33.3
④採算(収益)	-33.3	33.3	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-33.3	-66.7



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月	7～9月
売上	-66.7	-50.0	0.0	33.3	-33.3
収益	-50.0	-75.0	-33.3	33.3	-33.3
総合	-50.0	-50.0	-33.3	-33.3	-66.7

【漁網・ロープ】

月による変動はあるが、生産量では平均で前年並み。但し販売数量・金額は前年より5%前後の減少となっている。

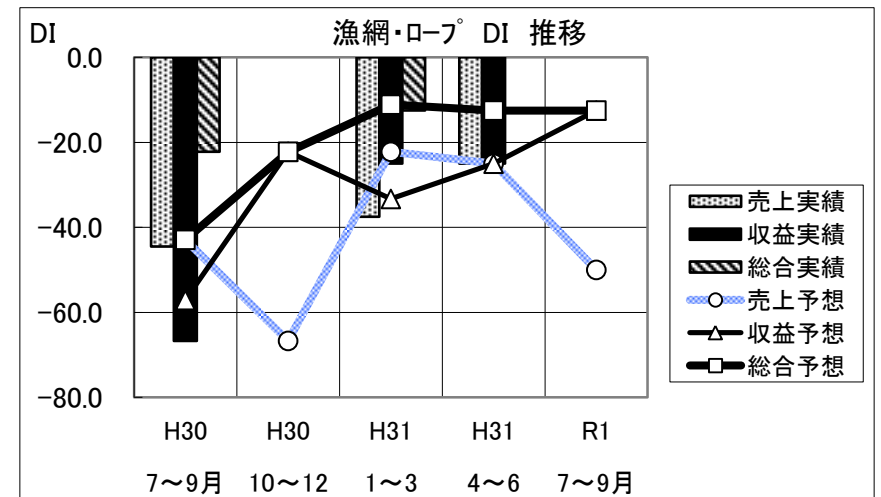
向こう3カ月の見通し

現状では見通しが難しいが、引き続きやや厳しい状況が予測される。(繊維ロープ部会)

(漁網・ロープ)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成30年4月～6月 に比べて	前期比 平成31年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-37.5	-25.0	-50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	-12.5
④採算(収益)	-25.0	-25.0	-12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	12.5	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.5	0.0	-12.5



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月	7～9月
売上	-44.5	0.0	-37.5	-25.0	-50.0
収益	-66.7	0.0	-25.0	-25.0	-12.5
総合	-22.2	0.0	-12.5	0.0	-12.5

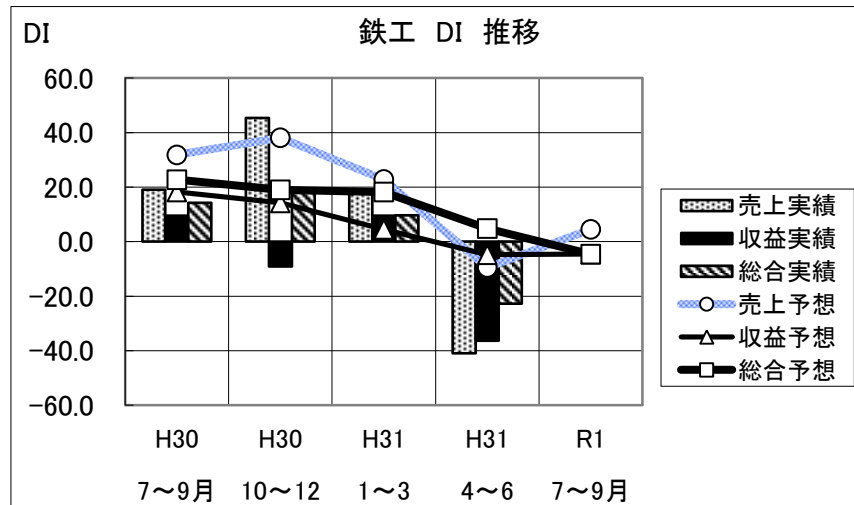
[鉄工]

<工作機械関係> 日本工作機械工業会の受注総額(内需・外需)では、4月1,086億円、5月1,085億円、6月は988億円。内需・外需ともに前年同月比で3~4割の減少となった。当地区においても前年同期・前期比で売上の減少等が見られ、好調を維持してきた業界が減速している。向こう3カ月の見通し 米中に加え日韓の摩擦も長期化の様相を呈し、円高の動きも受けて弱含みとなった。

<自動車部品関係>トヨタの国内日当たり生産は1万4千台と堅調で推移。新型SUVやミニバン等が牽引。向こう3カ月の見通し 消費税増税前の駆込需要もありトヨタの国内日当たり生産は引き続き1万4千台と堅調な見込みである。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年4月~6月 に比べて	前期比 平成31年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-22.7	-40.9	4.5
②製品・商品在庫	-4.6	-4.6	-4.6
③資金繰り	-22.8	-27.3	-18.2
④採算(収益)	-22.8	-36.4	-4.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	22.7	18.2	-4.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-22.8	-22.8	-4.6



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	19.1	45.4	19.1	-40.9	4.5
収益	9.5	-9.1	9.5	-36.4	-4.6
総合	14.2	18.2	9.6	-22.8	-4.6

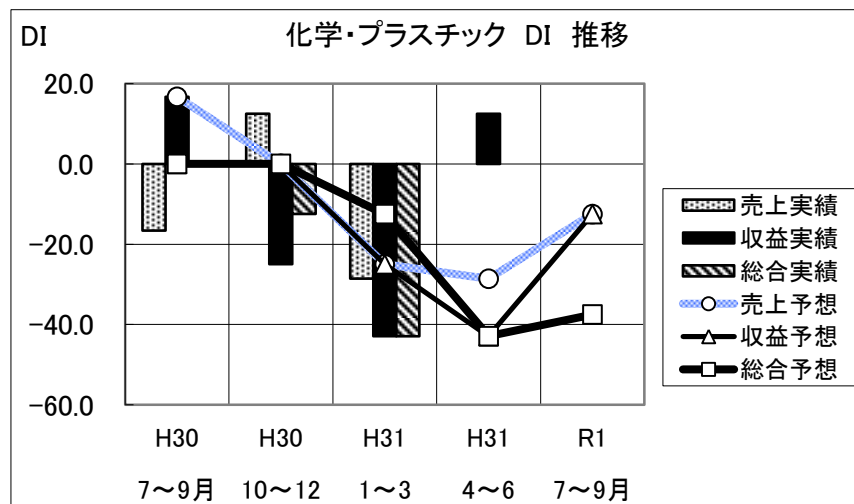
[化学・プラスチック]

<化学工業> 国内・輸出ともに堅調。向こう3カ月の見通し 今期同様の見込みとなっている。

<プラスチック>売上は前年並みも原材料・燃料高により採算が悪化傾向。販管費の圧縮等で利益を維持。向こう3カ月の見通し 自動車関係の動きが鈍化する流れにあり、楽観視できない。(化学部会)

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年4月~6月 に比べて	前期比 平成31年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	12.5	0.0	-12.5
②製品・商品在庫	-12.5	-12.5	-12.5
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	0.0	12.5	-12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	37.5	12.5	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	-37.5



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-16.6	12.5	-28.6	0.0	-12.5
収益	16.7	-25.0	-42.9	12.5	-12.5
総合	0.0	-12.5	-42.9	0.0	-37.5

建設業

売上DI値は△57.1、前期実績1～3月期(10.0)に比して67.1ポイントの下降、収益DI値は14.3、前期実績1～3月期(0.0)に比して14.3ポイントの下降、総合判断DI値は△14.3、前期実績1～3月期(△10.0)に比して4.3ポイントの下降。年度末の需要期を過ぎて、売上収益・総合とも下降となった。

向こう3カ月の見通し 売上は上昇、収益・総合は横バイの見込みとなった。(建設部会)

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年4月～6月 に比べて	前期比 平成31年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	14.3	-57.1	42.9
②製品・商品在庫	-14.3	-14.3	-14.3
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	0.0	-14.3	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-28.6	28.6	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	28.6	-14.3	0.0

卸売業

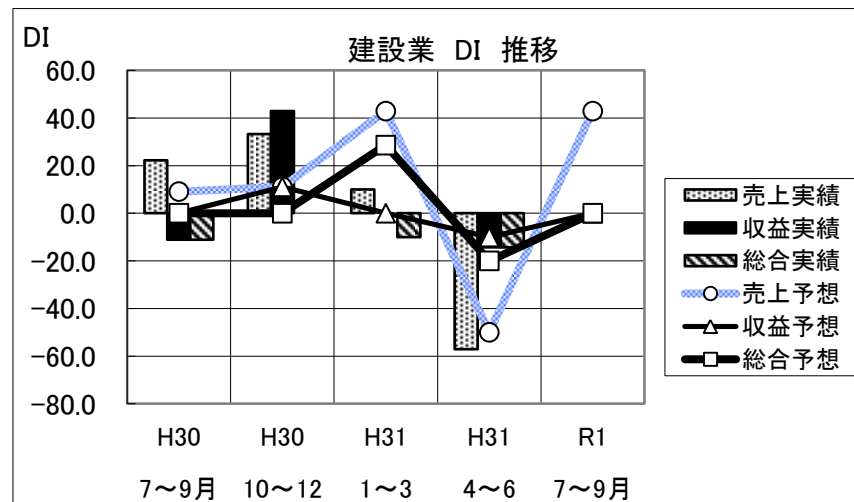
売上DI値は33.3、前期実績1～3月期(△83.3)に比して116.6ポイントの上昇。収益DI値は0.0、前期実績1～3月期(△33.3)に比して33.3ポイントの上昇、総合判断DI値は△6.6、前期実績1～3月期(△41.7)に比して35.1ポイントの上昇。春夏物の導入時期となり、大きく落ち込んだ前期に比べて回復するも、前値同期比では厳しい状況である。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合はじめ全ての数値でマイナスと慎重な見通しとなっている。

卸売業

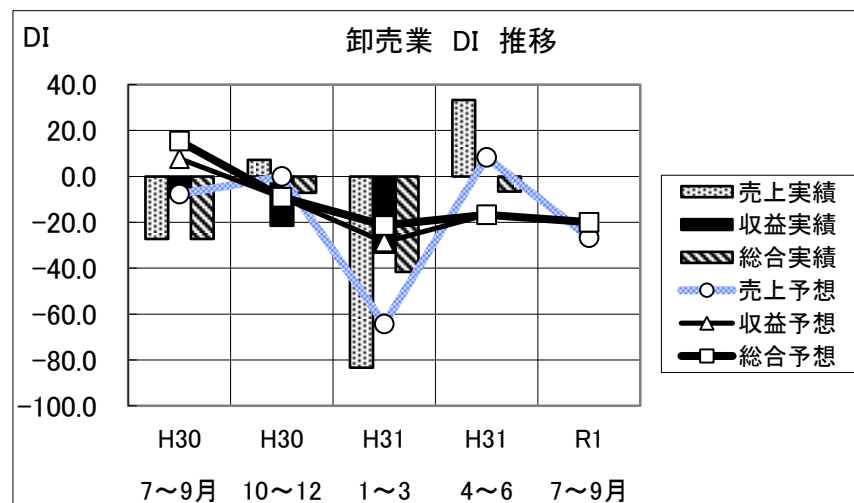
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年4月～6月 に比べて	前期比 平成31年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-33.4	33.3	-26.7
②製品・商品在庫	-46.7	-40.0	-26.7
③資金繰り	6.7	0.0	-13.3
④採算(収益)	-20.0	0.0	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-6.7	0.0	-13.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-13.4	-6.6	-20.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	22.2	33.3	10.0	-57.1	42.9
収益	-11.1	42.9	0.0	-14.3	0.0
総合	-11.1	0.0	-10.0	-14.3	0.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-27.3	7.2	-83.3	33.3	-26.7
収益	-9.1	-21.5	-33.3	0.0	-20.0
総合	-27.3	-7.2	-41.7	-6.6	-20.0

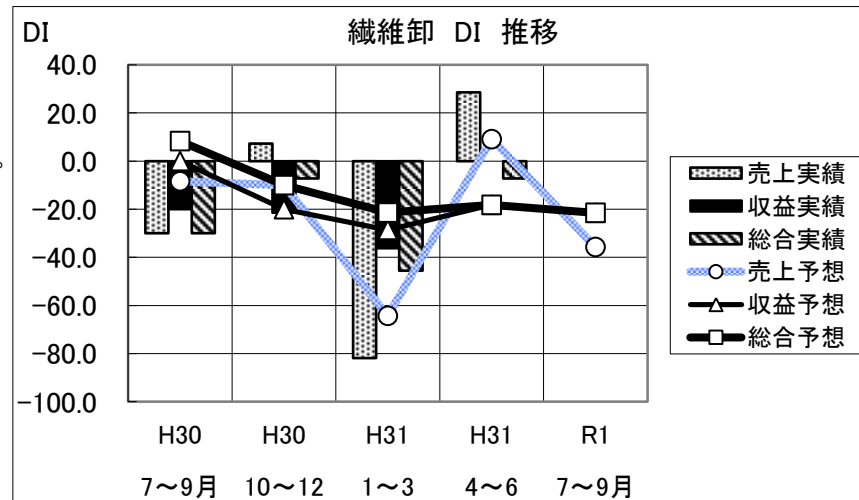
【繊維卸】

<インテリア>4月は商品の動きもよく順調。5月連休は例年並み。6月は閑散期のため売上は落ち着く。祝祭日に雨がが多く売上への影響を懸念。向こう3カ月の見通し 4~8月は梅雨明け時期が懸念材料。夏物は早めの売切処分が必要になるか。増税前の9月には秋冬物を揃え駆込需要へ対応したい。<アパレル>素材ではリネン関係は供給不足傾向で先々まで受注あり。プリント(ダイレクトワッフル)に動きがあった。製品では、夏物は母の日セール等の仮需で例年並み。それ以降は低調。問屋筋の動きが悪い。向こう3カ月の見通し 素材では、オーガニック・エコ(再生PE)生地の引合いが多い。店頭での荷動きが悪く付加価値商品の開発を期待。製品では、生産と需給バランスの崩れから夏物衣料は早期値崩れの懸念。秋冬物に期待かかるも厳しい状況。(繊維部会)

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年4月~6月 に比べて	前期比 平成31年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-35.7	28.6	-35.7
②製品・商品在庫	-50.0	-42.9	-28.6
③資金繰り	7.1	0.0	-14.3
④採算(収益)	-21.5	0.0	-21.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	-7.2	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	-7.2	-21.5



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-30.0	7.2	-81.8	28.6	-35.7
収益	-20.0	-21.5	-36.3	0.0	-21.5
総合	-30.0	-7.2	-45.5	-7.2	-21.5

小売業

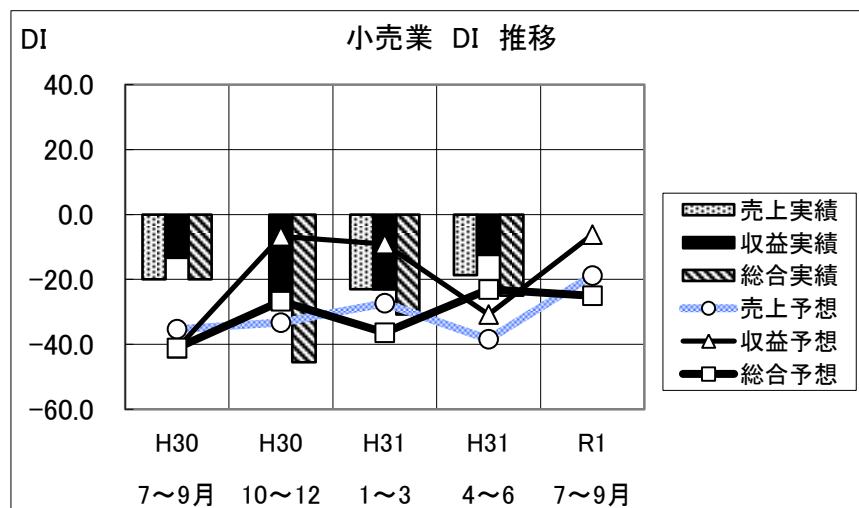
売上DI値は△18.7、前期実績1~3月期(△23.0)に比して4.3ポイントの上昇。収益DI値は△12.5、前期実績1~3月期(△23.1)に比して10.6ポイントの上昇、総合判断DI値は△25.0、前期実績1~3月期(△30.8)に比して5.8ポイントの上昇。DI値は僅かに上昇するも消費意欲に力強さが戻らず、売上・収益・総合ともに水面下の状況となった。

向こう3カ月の見通し 長引く消費意欲の停滞により売上・収益・総合ともに水面下の見通しとなっている。(商業部会)

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年4月~6月 に比べて	前期比 平成31年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-12.5	-18.7	-18.8
②製品・商品在庫	-12.5	-12.5	-12.5
③資金繰り	12.5	6.2	-12.5
④採算(収益)	-12.5	-12.5	-6.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	0.0	-25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.5	-25.0	-25.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	-20.0	0.0	-23.0	-18.7	-18.8
収益	-13.3	-27.3	-23.1	-12.5	-6.2
総合	-20.0	-45.5	-30.8	-25.0	-25.0

[飲食]

特徴的な変化はないが、今期はGW10連休の効果もあり祝祭日の利用が通常より目立った。営業形態にもよるが、時間帯では、お昼に比べて夜が少ない状況に変わりはない。歓送迎会等の利用も小グループ化が進んでいるが、地元飲食店をご利用いただけて大変ありがたい。

向こう3カ月の見通し 全体的にはあまり大きな変化はない見込みだが、夏休みは観光客・家族利用が増加するシーズンであり例年並みの利用を期待している。毎月17日は「地魚の日」など、付加価値を生む取り組みを進めたい。

(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年4月～6月 に比べて	前期比 平成31年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	75.0	25.0	-25.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-25.0
③資金繰り	50.0	75.0	25.0
④採算(収益)	75.0	75.0	25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	50.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	50.0	50.0	0.0

[石油等その他小売]

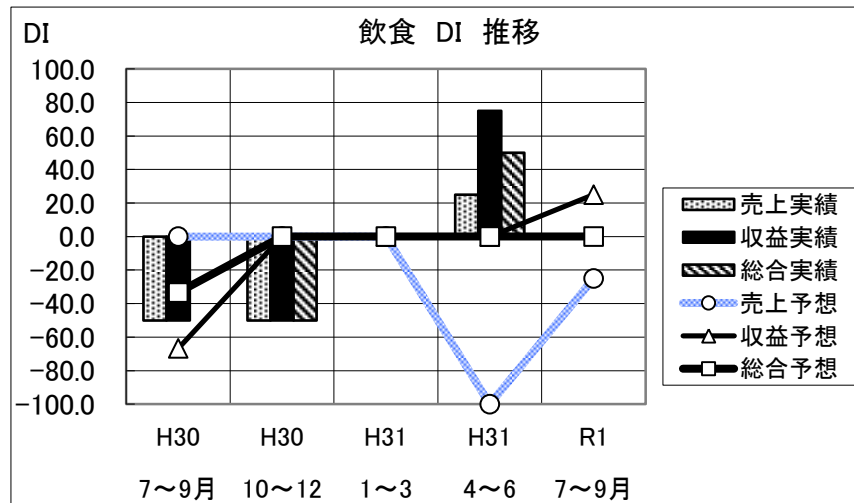
原油価格(WTI期近物)はOPEC協調減産の継続やリビア情勢の緊迫化等で一時1バレル60ドル台まで上昇したが、米国・ロシアの増産傾向、米中貿易摩擦等による需要減退懸念もあって50ドル台後半で推移している。

向こう3カ月の見通し 需給面では概ね均衡した状態であり比較的安定した推移が見込まれるが、米国とイランの軍事的緊張など中東情勢次第で高値にふれる懸念が燦る。(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

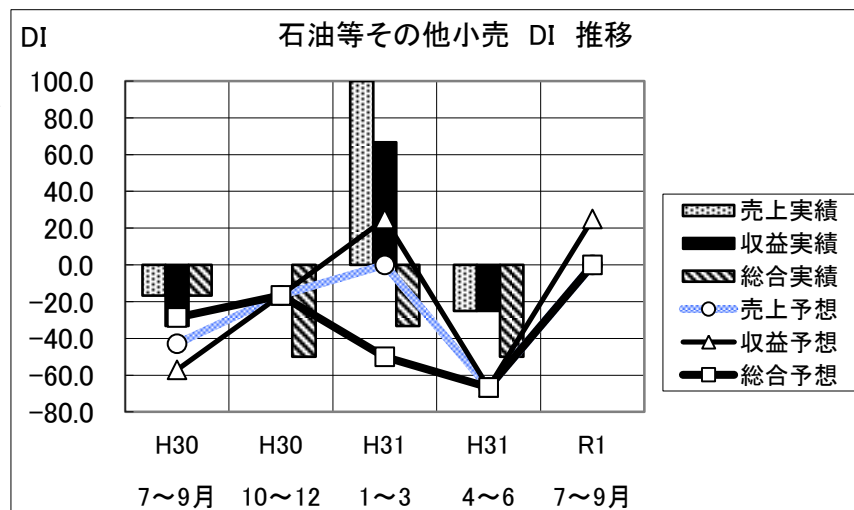
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年4月～6月 に比べて	前期比 平成31年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	25.0	-25.0	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	-50.0	-50.0
④採算(収益)	25.0	-25.0	25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-25.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-50.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月	7～9月
売上	-50.0	-50.0	0.0	25.0	-25.0
収益	-50.0	-50.0	0.0	75.0	25.0
総合	0.0	-50.0	0.0	50.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月	7～9月
売上	-16.7	0.0	100.0	-25.0	0.0
収益	-33.3	0.0	66.7	-25.0	25.0
総合	-16.7	-50.0	-33.3	-50.0	0.0

サービス業

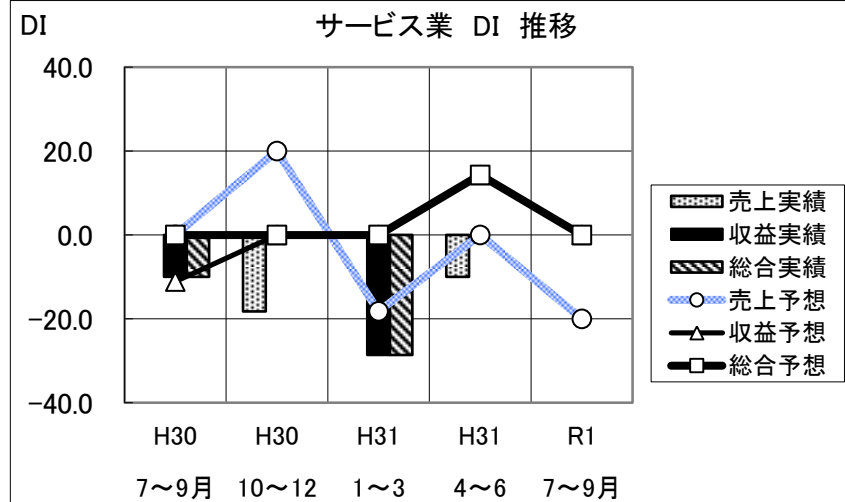
売上DI値は△10.0、前期実績1～3月期(0.0)に比して10.0ポイントの下降、収益DI値は0.0、前期実績1～3期(△28.6)に比して28.6ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績1～3期(△28.6)に比して28.6ポイントの上昇と、売上は下降するも、収益・総合は横バイの状況。

向こう3カ月の見通し 売上の減少を懸念する声があるも、収益・総合は横バイの見通しとなっている。

サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成30年4月～6月 に比べて	前期比 平成31年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	30.0	-10.0	-20.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	20.0	0.0	0.0
④採算(収益)	0.0	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-30.0	0.0	20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	10.0	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	0.0	-18.2	0.0	-10.0	-20.0
収益	-10.0	0.0	-28.6	0.0	0.0
総合	-10.0	0.0	-28.6	0.0	0.0

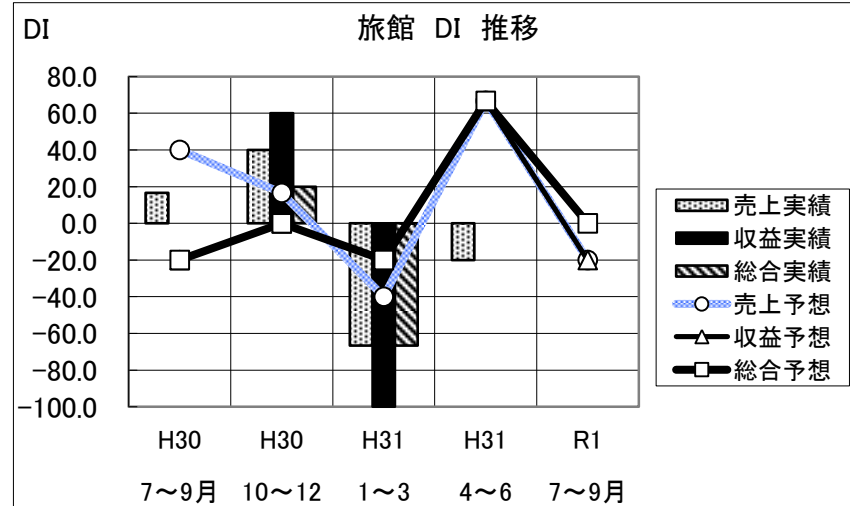
[旅館]

GW10連休に旅行が集中し、前後は出控えで不安定。6月以降の雨天は客足に影響があった。宿泊者数ベースでは前年比並も底上げ要因はインバウンドでGW期間以外の国内旅行は減少。この傾向はしばらく続く見込みで、インバウンド受入のためフリーWi-Fiの普及、二次交通、看板多言語化など進めたい。また、国内旅行獲得のため形原温泉あじさい祭など観光資源を充実させたい。向こう3カ月の見通し トップシーズンの夏になり早期の梅雨明けを願う。予約の出足は鈍いが、旅行の間際予約化に加え、GWに対してお盆旅行を控える傾向も感じる。9月のラグビーW杯関連の動きは未定だが、若干の宿泊増には期待。台風・天候の影響も注視。みかわdeオンパクが「MIKAWA de じゃんだらりん」に名称変更して今年も実施。夏季ならではの体験プログラムもあり選択肢の増加は喜ばしい。今後も広域連携をさらに進め、四季を通じた楽しみ方を提案していき

(旅館観光部会)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成30年4月～6月 に比べて	前期比 平成31年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	40.0	-20.0	-20.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	20.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-20.0	0.0	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-40.0	0.0	40.0
⑥貴社の業況(総合判断)	20.0	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月
売上	16.7	40.0	-66.7	-20.0	-20.0
収益	0.0	60.0	-100.0	0.0	-20.0
総合	0.0	20.0	-66.7	0.0	0.0

運輸通信業

売上DI値は12.5、前期実績1～3月期(△12.5)に比して25.0ポイントの上昇、収益DI値は△12.5、前期実績1～3月期(△12.5)に比して横バイ、総合判断DI値は0.0、前期実績1～3月期(△25.0)に対して25.0ポイントの上昇と、売上は上昇・収益は下降・総合判断は横バイとなった。

向こう3カ月の見通し 売上・総合は横バイ。収益は下降の見通しである。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年4月～6月 に比べて	前期比 平成31年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	12.5	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	12.5	12.5	0.0
④採算(収益)	0.0	-12.5	-37.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	12.5	12.5	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.5	0.0	0.0

[旅客・貨物輸送・水運]

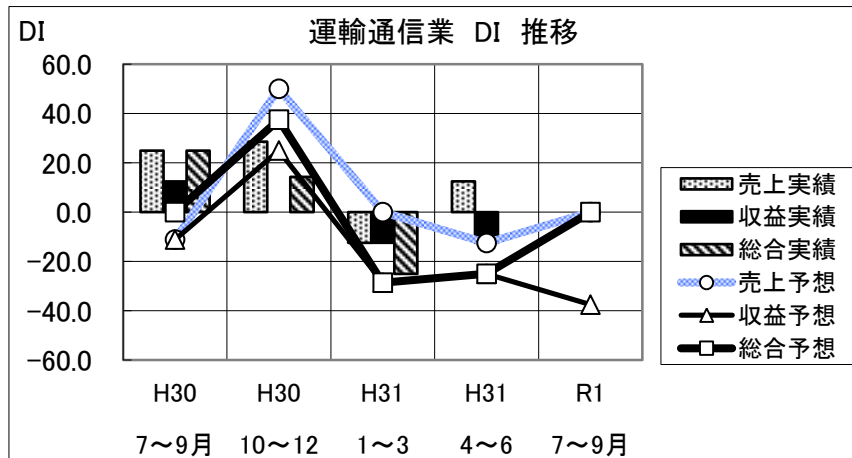
<貨物輸送> 完成車輸出は、主に北米向けの減少で月1万台を割り込んだまま。海上コンテナ貨物輸出は中国向け中心に好調を維持。鋼材移入は月間1万t以上の好調を維持。向こう3カ月の見通し 完成車輸出は北米向けが増加し、1万台以上を見込む。海上コンテナ貨物輸出・鋼材移入は引き続き好調の見込み。

<旅客> GW長期化もあってか4～6月期は対前年比も上回り順調に推移した。向こう3カ月の見通し 見通しとしては対前年並みの見込み。(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

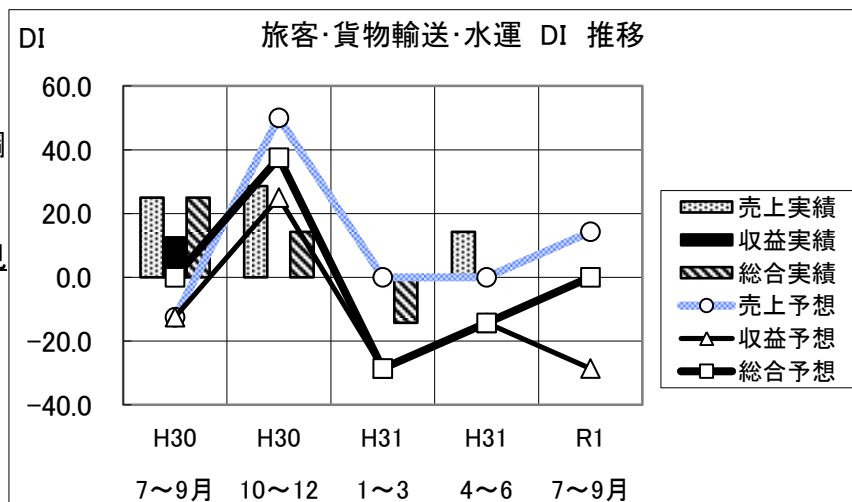
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年4月～6月 に比べて	前期比 平成31年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和元年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	14.3	14.3	14.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	14.3	14.3	0.0
④採算(収益)	14.3	0.0	-28.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	14.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月	7～9月
売上	25.0	28.6	-12.5	12.5	0.0
収益	12.5	0.0	-12.5	-12.5	-37.5
総合	25.0	14.3	-25.0	0.0	0.0

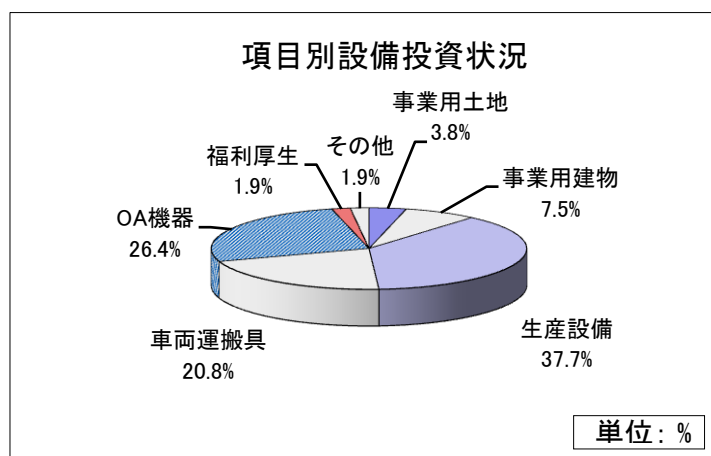
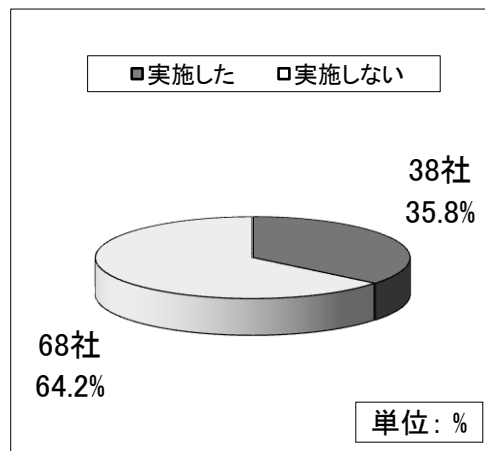


<業況判断DIの推移>

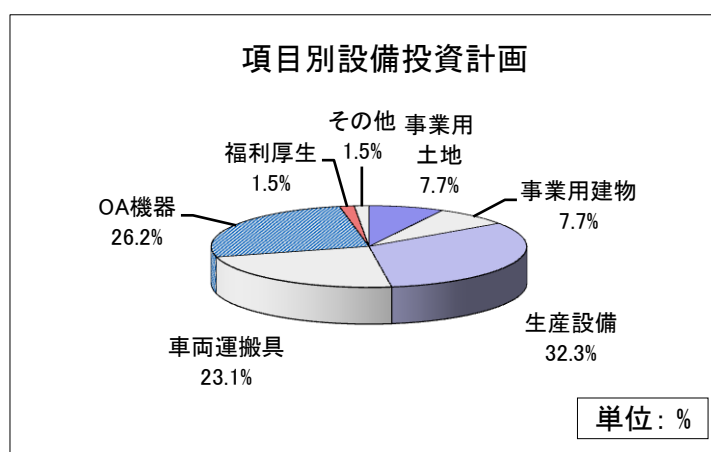
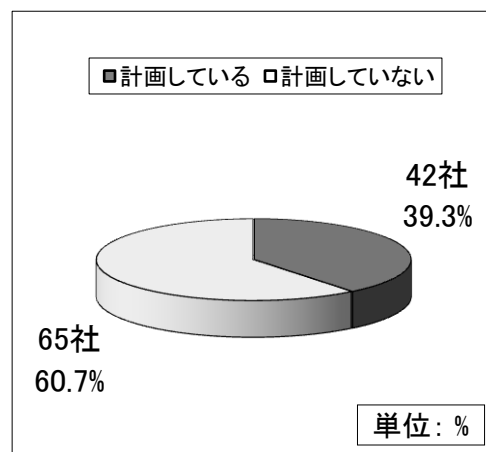
	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月	7～9月
売上	25.0	28.6	0.0	14.3	14.3
収益	12.5	0.0	0.0	0.0	-28.6
総合	25.0	14.3	-14.3	0.0	0.0

7. 設備投資動向

＜今期(H31. 4～R1.6月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(R1.7月～9月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	2	5
事業用建物	4	5
生産設備	20	21
車両運搬具	11	15
OA機器	14	17
福利厚生	1	1
その他	1	1
計	53	65

(単位：件)

◎今期(H31.4～R1.6月)、来期(R1.7～9月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H31.4～R1.6月)	38	22	2	3	4	4	3
2. 来期 (R1.7～9月)	42	22	1	3	5	5	6

(単位：事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 107 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	59 55.1%
2	利幅の縮小	51 47.7%
3	人手不足	43 40.2%
4	原材料(燃料)高	32 29.9%
5	人件費の増加	29 27.1%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 51 社	売上の停滞・減少 29 社 56.9%	利幅の縮小 26 社 51.0%	人手不足 19 社 37.3%
建設業 7 社	利幅の縮小 6 社 85.7%	人手不足 5 社 71.4%	人件費の増加 4 社 57.1%
卸売業 15 社	売上の停滞・減少 10 社 66.7%	利幅の縮小 7 社 46.7%	原材料(燃料)高 6 社 40.0%
小売業 16 社	売上の停滞・減少 11 社 68.8%	利幅の縮小 6 社 37.5%	競争激化 5 社 31.3%
サービス業 10 社	人手不足 7 社 70.0%	競争激化 3 社 30.0%	利幅の縮小 3 社 30.0%
運輸通信業 8 社	売上の停滞・減少 5 社 62.5%	人手不足 5 社 62.5%	利幅の縮小 3 社 37.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No.83

番号	調査項目	単位	R01.08報告	基準日	R01.05報告	基準日	H31.02報告	基準日	H30. 10報告	基準日	出典
1	人口	人	80,395	H31.4.1	80,521	H31.4.1	80,513	H30.12.1	80,454	H30.9.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		3,160		3,078		2,994		2,863		
2	世帯数	世帯	33,029	H31.4.1	32,545	H31.4.1	32,401	H30.12.1	32,284	H30.9.1	"
	(うち外国人)		1,585		1,537		1,470		1,385		
3	15才～65才生産人口	人	48,166	H31.4.1	48,266	H31.4.1	48,306	H30.12.1	48,264	H30.9.1	"
	(うち外国人)		2,624		2,555		2,475		2,361		
4	建築確認届出件数	件									蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
5	全国完全失業率	%	2.4	H31.5月	2.5	H31.3月	2.3	H30.9月	2.4	H30.6月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	1.6	H31.1月～3月	1.8	H30.10月～12月	1.8	H30.7月～9月	1.6	H30.4月～6月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
6	全国有効求人倍率	倍	1.62	R01.5月	1.63	H31.3月	1.63	H30.11月	1.63	H30.8月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.99	R01.5月	1.17	H31.2月	1.30	H30.11月	1.08	H30.8月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶を除く)前年同月比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比(実質)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	528.8	2.9	1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	533.4	0.0	▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	526.0	▲ 0.9	▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	521.9	0.7	▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	528.4	2.5	▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	519.2	▲ 0.5	▲ 1.7	-
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	514.9	0.9	0.1	-
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	517.7	2.0	▲ 1.0	588.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	521.3	1.7	0.4	582.1
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	525.6	2.0	▲ 0.4	586.2
2006年度	275	4.1	1.06	5.0	1,285,246	529.0	1.4	▲ 2.2	561.9
2007年度	257	3.9	1.04	2.3	1,035,598	530.9	1.2	0.9	532.0
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 16.6	1,039,214	509.5	▲ 3.4	▲ 1.9	470.1
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 15.4	775,277	492.0	▲ 2.2	▲ 0.2	488.0
2010年度	334	5.1	0.52	19.4	819,020	499.4	3.3	0.3	460.1
2011年度	284	4.5	0.65	4.2	841,246	494.0	0.5	▲ 2.2	475.3
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 7.1	893,002	494.4	0.8	1.1	521.0
2013年度	265	4.0	0.93	10.6	987,254	507.3	2.6	1.0	569.2
2014年度	236	3.6	1.09	8.0	880,470	518.2	▲ 0.4	▲ 2.9	529.7
2015年度	222	3.4	1.23	▲ 1.2	920,537	532.9	1.3	▲ 2.3	493.8
2016年1月	211	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	213	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	133.3	0.7	1.2	27.5
3月	216	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	224	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	216	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	132.4	0.1	▲ 1.1	22.3
6月	210	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月	203	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月	212	3.1	1.37	0.2	82,242	130.7	0.2	▲ 4.6	22.3
9月	204	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7
10月	195	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2
11月	197	3.1	1.41	24.5	85,051	139.4	0.2	▲ 1.5	27.3
12月	193	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4
2017年1月	197	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8
(平成29年)2月	188	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	134.2	0.8	▲ 3.8	31.2
3月	188	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0
4月	197	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4
5月	210	3.1	1.49	8.6	78,481	134.3	0.5	▲ 0.1	23.7
6月	192	2.8	1.51	3.4	87,456			2.3	31.5
7月	191	2.8	1.52	10.5	83,234			▲ 0.2	27.8
8月	189	2.8	1.52	19.7	80,562	133.8	0.6	0.6	23.3
9月	190	2.8	1.52	7.6	83,128			▲ 0.3	31.8
10月	181	2.8	1.55	12.3	83,057			0.0	23.1
11月	178	2.7	1.56	5.8	84,703	142.7	0.3	1.7	25.8
12月	174	2.8	1.59	▲ 6.6	76,751			▲ 0.1	26.2
2018年1月	159	2.4	1.59	8.7	66,358			2.0	24.3
(平成30年)2月	166	2.5	1.58	7.8	69,071	136.4	▲ 0.1	0.1	29.6
3月	173	2.5	1.59	▲ 2.8	69,616			▲ 0.2	43.8
4月	180	2.5	1.59	11.4	84,226			▲ 1.3	22.5
5月	158	2.2	1.60	15.3	79,539	136.2	0.6	▲ 3.9	23.6
6月	168	2.4	1.62	▲ 4.2	81,275			▲ 1.2	29.2
7月	172	2.4	1.63	11.3	82,615			0.1	28.1
8月	170	2.4	1.63	4.9	81,860	133.3	▲ 0.6	2.8	23.3
9月	162	2.3	1.64	▲ 5.4	81,903			▲ 1.6	30.8
10月	163	2.4	1.62	6.1	83,330			▲ 0.3	26.1
11月	168	2.5	1.63	4.0	84,213	142.7	0.5	▲ 0.6	27.9
12月	159	2.4	1.63	▲ 4.0	78,364			0.1	25.0
2019年1月	166	2.5	1.63	▲ 8.5	67,087			2.0	24.9
(平成31年)2月	156	2.3	1.63	▲ 3.7	71,966	138.0	0.6	1.7	30.0
3月	174	2.5	1.63	▲ 0.2	76,558			2.1	41.7
4月	176	2.4	1.63	▲ 6.0	79,389			1.3	23.0
5月	165	2.4	1.62	▲ 10.1	72,581			4.0	24.7
6月			1.61		81,541			2.7	29.0

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)